

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

六字城

ROKUJIJO

2019/7/1
No.656

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝

えんまいざん
淵理山

出口御坊 光善寺

～第2回 天満別院 崇敬寺院巡り～



蓮如上人木像（宝物）

出口御坊 光善寺 住職 藤原 忍
住所…大阪府枚方市出口2丁目8番13号

沿革
出口御坊光善寺は、蓮如上人開基の寺であります。文明7年（1475）8月21日に福井県の吉崎を退去され、舟にて小浜に着かれ、丹波・摂津を抜けて9月5日に河内国茨田郡中振の郷出口村に移られました。御厨石見入道光善が草庵を建ててお迎えされました。出口は京都と大阪の中間地点で淀川の南岸に接し、水陸交通の便利な土地柄でした。当時この地には二丁四方（一万四千四百坪）の大きな池があり、それを埋め立てて諸堂を建立されましたので、山号を淵埋山（えんまいざん）と名づけられました。

その池は今も小さく残され、石川丈山作という光善寺庭園の一部となっています。

また池の周囲には梓（はら）の木「現在の植物名さいかち」がよく茂っていましたので、人びとは光善寺のことを「梓原堂（しんげんどう）」とも呼んでいたと伝えられています。今も光善寺庭園の片隅に梓の太木が残っていて、大阪府の天然記念物に指定されています。

池に面した庭園は五百二十数年前の蓮如上人ご在住当時の姿で残されています。石川丈山は、この庭園を萬象亭と名づけました。当時は池のすぐそばを淀川が流れていて、三十石船の上り下りする情景や彼方に見える天王山の風景を借景に取り入れた風流な眺めでしたが、今は淀川の堤防が五百米以上も西へ移り、その風情は昔話となりました。

天文3年（1534）火災にあい、一時は淀川の方こう側の摂津国島下郡鳥飼や、河内国茨田郡大場等に移転していましたが、慶長年間（1596・1615）に再び出口に還って再建されました。

法要・行事予定

7月

- 11日・従如上人御祥月御命日（午前8時）
 - 12日・闍如上人御逮夜・常永代経（午後2時）
・青年部会講習会「別院と崇敬寺院」（午後4時）
近松誉師（本山宗務所本願部部長）
 - 13日・闍如上人御命日※兼日中（午前8時）
 - 14日・同朋の会例会（午後2時）
建部智宏師（第7組 教應寺住職）
 - 17日・法要部会学習会※寺族対象（午後5時）
 - 20日・天満別院合唱団『みのり』（午後2時）
村上奈津子師（第13組 超願寺住職）
 - 25日・宣如上人御祥月御命日（午前8時）
 - 27日・宗祖聖人御逮夜（午後1時30分）
・定例法話「老人医療の現状と行方」
桝屋義雄師（桝屋クリニック院長）
 - 28日・宗祖聖人御命日※兼日中（午前8時）
- 諸事情により、今月の定例法話は27日に開催し、正信偈書写の会はお休みさせていただきます。

8月

- 5日・暁天講座（午前6時）
武宮信勝（天満別院輪番）
 - 6日・暁天講座（午前6時）
 - 12日・合祀墓追弔会（午前9時）
・闍如上人御逮夜・常永代経（午後2時）
※墓前申経（午前9時～午後5時まで）
 - 13日・証如上人御祥月御命日
・闍如上人御命日※兼日中（午前8時）
・孟蘭盆会（午後1時30分）
山内雅教師（第7組 光明寺住職）
※墓前申経（午前9時～午後5時まで）
 - 17日・天満別院合唱団『みのり』（午後2時）
村上奈津子師（第13組 超願寺住職）
 - 27日・宗祖聖人御逮夜（午後2時）
 - 28日・宗祖聖人御命日※兼日中（午前8時）
- 諸事情により、来月の同朋の会例会、正信偈書写の会、定例法話はお休みさせていただきます。

◆暁天講座 案内

天満別院では左記の通り暁天講座を開講いたします。

記

日時 8月5日（月）、6日（火）

両日ともに午前6時～ おつとめ

午前6時30分～ 法話

講師 武宮信勝（天満別院輪番）

講題 「凡愚に帰れ」

場所 天満別院 1階講堂

※ 聴講は無料です。尚、講座終了後には軽食を用意しております。

（ご提供 太田石材店様）

お一人でも多くの方々のご聴講をお待ちしています。

天満別院 今月の伝道掲示板

自分の心が
一番しまつに困る
承知せぬのは
自分の心である
— 曾我量深 —

編集後記

特に団体スポーツにおいては、そうだと思いますが、新しい選手が入ってくると、チームに刺激を与え、チームは活性化します。これは会社組織においても同様のことが言えると思います。別院では老木の銀杏に代わるシンボルツリーとして3月にイロハモミジが植樹され、同時期から定期的に水やりを行うようになったこともあってか、今までになく銀杏が元氣になりました。[まだまだ若い者には負けない] そう言っているように感じてならない今日この頃です。

（H）

寺町という歴史ある地域に
根ざした老舗葬儀社

（株）天満花重

〒530-0041
大阪市北区天神橋 3-4-6
電話 (06)-6351-3875
FAX (06)-6351-6260

株式会社 太田石材店

本社
〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
TEL (06) 6930-5075 FAX (06) 6930-5078

工場
〒536-0017 大阪市城東区新喜多東1丁目8番2号
TEL (06) 6968-8111 FAX (06) 6968-8805

<http://www.otasekizaiten.co.jp/>

お内仏の三具足について



お内仏という言い方をします。何故なら、お内仏そのものが、お浄土を表現し、ご本尊は基より、お仏具一つひとつが阿彌陀如来の十二光を形取られて、我々に分かりやすくお荘厳されておるのです。

答え
親鸞聖人は、正信偈の始めに「命無量寿如来、南無不可思議光と示され、浄土和讃では、無量寿（絶ることの無い光明）と無辺光（遮ることの無い光明）について説明されています。阿彌陀如来は十二光の功德（光明のはたらき）を讃えられています。

聖人の時代は、床間にお名号を掛け、その前に卓（つくえ）を置き、お花、お香、お蠟燭を飾られたようです。その後にお仏壇の形式が成り立ったのです。一般的に、お仏壇と言われますが、真宗門徒に於いては、

お内仏は、お浄土の姿、形を整える準備をし、それがお給仕です。亡き人やご先祖を敬う思いでお花やお菓子をお供えすることは、心情的には大切なことでしょうが、ご法事をお勤めすることは亡き人やご先祖のご縁とお導きによって今、私達が仏様の光明に照らされ、教えに出遇うことが本当に大切なことです。親の命日だからお仏華を立て替えるのではなく、常に清浄なお仏華を立て、お香を焚き、蠟燭に火を灯し、お浄土の姿を保つようお給仕し、お備えるのです。又、鶴亀の燭台ですが、中国の床飾りを用いたもので、常は蠟燭に火を灯ない場合は、朱色に塗った飾りの木蠟を立て、三具足をお荘厳致します。

（第7組 光明寺 山内 雅教）

報告

◆別院門徒会定期総会 開催報告

去る6月23日（日）、天満別院門徒会定期総会が開催され、左記の通り議案の審議が行われました。

記

- 天満別院門徒会
- ・2018年度事業・会計報告
- ・会計監査報告
- ・2019年度事業計画（案）
- ・その他（別院門徒会役員改選）

以上

全議案、全会一致で可決承認されました。またこの度、別院門徒会役員改選が承認され、新旧門徒会長からご挨拶をいただきましたので、掲載させていただきます。

門徒会会長就任にあたって

八十島 義郎



このたび縁あって門徒会会長にご推挙頂き、その責任の重大さに驚いております。お引き受けした以上、全力で全う致したく思います。何卒、この浅学非才の私にご指導、ご鞭撻の程をお願い致します。



す。また前任者の宇野会長には、2期に亘り大変な気苦労をおかけ致しました。謹んで御礼申し上げます。今日、一人の念仏者を生み出す同朋会運動が衰退していると云われ続けられています。先ずはお内仏に手を合わすところから始めていきましょう。そして奮って別院の行事に参加致しますよう。

門徒会会長退任の挨拶
宇野 善昭

天満別院門徒会の皆様、いつも別院門徒会活動に御理解と御協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。この度、門徒会会長を退く事となりました。思いもかけず会長になって7年、何も会長らしい事も出来ず、申し訳なく思っております。皆様と共に立派な750回御遠忌にお参りさせていただいた事は忘れられない思い出となりました。崇敬寺院、御門徒の皆様は心より感謝しています。今後、更に皆様と共に聞法に励みたいと思います。長い間本当にありがとうございました。

◆別院院議会 開催報告

去る6月20日（木）、天満別院責任役員会及び院議会が開催され、左記の通り議案の審議が行われました。

記

- 2018年度
- ・経常部及事業部歳入歳出決算書
- ・本坊運営資金収支計算書
- ・災害見舞特別会計収支計算書
- ・墓地運営資金収支計算書
- ・退職給与積立金収支計算書
- ・整備事業積立金収支計算書
- ・有価証券勘定書収支計算書
- ・期末現金・預金・有価証券勘定書
- ・その他

以上

全議案、両会とも全会一致で可決承認されました。又、その他において別院諮問審議会「財政基盤整備委員会」が7月より発足すること、本堂等のLED化についても承認されました。

詳細につきましては、いつでも別院にお問い合わせください。尚、門徒会の皆様には、同封の折込にてご報告いたします。

◆6月夏の御文 開催の報告

第7組 本照寺前住職

沖野 頼信 師

別院では23、24日に夏の御文法要が勤まりました。師からは「阿彌陀佛から智慧をいただいて樂になる方法」という講題のもとお話をいただきました。中でも「六根清浄」は修行するときの掛け声であり、今で言う「よっこいしょ」の語源になる言葉、また「六根清浄」は眼、耳、鼻、舌、身、意の六根のことであり、修行することなどの功德によって清らかになることだと教えていただきました。他にも「この世にはいいも悪いもない」と教えてくれるのが仏教であります等々。2日間に亘り、名余の方々が熱心に聴聞されました。ありがとうございました。



7組 沖野 頼信 師

輪番雑感

「慶讃法要のテーマから感じる」と

輪番

武宮 信勝

来る2013年「宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」をお迎えするに当たり、慶讃テーマが過日宗会常会において発表された。

「南無阿彌陀仏」

人と生まれたこと

意味をたずねていく

今迄、大法要の度ごとにテーマが掲げられてきた中で、冒頭に「南無阿彌陀仏」が表現されたのは初めてのことだろう。今後宗門内外において、そのテーマの意味することが各地の聞法会・同朋会で語られていくと思うが、そもそもテーマは何のために設けられるのであるか？必ず必要なものなのか？皆さんはどう思いますか？

私は今の時代では必ず必要なことだと考える。今日多種多様な人々の生きざま、しかも激変する社会情勢にあって、生きる方向性が見失われつつある中で、何処に向かって歩むのかを示唆する意味

でとっても大事なことであります。理念としても。

過る約50年前の御誕生800年法要の折は、「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」でした。宗祖の御誕生の意義を、私達一人ひとりの人間誕生について共に学びを深めようという願いがかけられました。あれから50年、人間誕生の意義は、私にとって、人々にとっても一生の課題であることが改めて問われ続けられることが確認されたのでないでしょうか。

さて、今回「南無阿彌陀仏」と冒頭に表わされているのは、どうしてか？私がかって平野修師から、「末代無智の、在家止住の男女たらんともがらは」『御文五帖一通』を拝読する時に大事なことは、「南無阿彌陀仏、末代無智」といいたくことですね、と教えられたことを思い出します。そのことから憶念すると、私に先だって人となりて生まれたことの意味を阿彌陀さまが願っておられ、その願いに応えて欲しいということにならないでしょうか。せっかく出されてきたテーマついて、今後皆さんと共に語り続けていきましょ